

客および貨物の積卸しをなす場所をいう。法律では、空港とは主として航空運送の用に供する公共用飛行場と定義している(空港整備法)。したがって航空機使用事業の基地として用いられる飛行場は空港ではない。

空港は平たんにして視界がさえぎられず、気象状況が航空機の離着陸について好適なところでなければならない。空港の位置の選定は都市計画と密接な関連を有し、広大な敷地を必要とするから、これを都心に設けることはできないが、できるだけ都心に近接していることが望ましい。そしてこの間、自動車または鉄道による連絡が良好でなければならない。そうでないと航空機の利用によって短縮し得た時間も都市と空港との往復に要する時間によって相殺されるからである。

輸送要請の少ない空港は、滑走路と最少の積卸し設備で足りるが、大きな空港では、離着陸滑走路・風向指示機・航空管理室のほかには格納庫、ガソリン・油・水の供給設備、修理工場、自動車駐車場、貨物の保管および積卸用の倉庫施設、消火設備、気象通報設備などを要し、さらに旅客のために各種の娯楽施設、レストラン、ホテルなどを必要とする。水上機用空港は港湾、河川、湖など風波の穏かな水面を選んで設けられ、その水深が少なくとも常に6ft以下であってはいならない。そしてその設備は内陸空港のそれとほぼ同様であるが、その他に水上機を曳航(えいこう)する施設ならびにこれを水面から移すための施設を要する。

空港の所有は、国有、州有、市有、会社所有などに分たれるが、アメリカ合衆国の大部分の空港は市有市営である。わが国の場合、空港は第1種(国際航空路線に必要な飛行場。運輸省が建設・管理する)、第2種(主要な国内航空路線に必要な飛行場。運輸省が建設・管理する)、第3種(地方的な航空運送を確保するために必要な飛行場。地方公共団体が建設・管理する)の3つに分けられている。(大森一二)

くうしゃ 空車 (英) empty car

1 空車の意義

* 積車または盈車(えいしゃ)に対する反対語。貨車の空車についてはつぎのように取扱われる。貨車は貨物の到着地帯に過剰となるから、ここから発送地帯に空車で回送して、貨車の偏在傾向を調整する。荷主から要請のある輸送貨物に対してその駅に該当の貨車がないときは、他駅からその駅に空車注入を行わなければならない。

2 空車計画の設定

貨物の出貨想定にもとづいて貨車の先行別使用計画をたて、地域別の到着車数を予想し、この到着車数と使用車数との差数によって、到着の過剰地域から不足地域に対して空車の回送計画を立てるのである。空車回送計画は発地域別・宛先別・車種別に立てられる。

3 空車計画の変更

出貨は経済変動・取引状況・気象その他種々の原因で、予想どおりに実績が現われない場合がある。これを実際の動きに合わせるように日々対処しなければならない。国鉄では本社と各地との間に通話時刻を定めて行う定時通話指令によって修正するのが通例である。

4 空車回送の実施

支社または鉄道管理局は、他の管内へ貨車の回送命令を受けた場合は、自管内の使用にさきだてて速かに手配し、確実に実施しなければならない。また社線発国鉄到着または通過となる貨物輸送のため、社線の要求によって、その社線へ国鉄所属の貨車を空車回入することもある。

駅は貨車の回送命令を受けた場合は、つぎの順序にしたがい、自駅の使用にさきだてて速かに空車を回送しなければならない。

(1) 他の支社管内へ回送するもの (2) 他の鉄道管理局管内へ回送するもの (3) 自駅所管の鉄道管理局管内へ回送するもの。

他の支社管内または他の鉄道管理局管内へ回送する回送空車は、なるべく回送列車および車種・車数を指定して行わなければならない。

5 空車回送命令の実績監視

空車回送命令を行ってもこれを確実に実行しなければ、現在の適正な分布調整の目的を達することができないので、空車排出命令を受けた空車を回送したときは、支社または鉄道管理局の指定した駅から本社、所管支社ならびに着駅所管支社および所管鉄道管理局あてに、毎日6時を期して前日の6時から当日の6時までの間に、他管区に出入した空車すなわち排出空車の回送列車および車種・車数を、空車数報告と貨車出入報告をもって報告させ、実績を注視する方法をとっている。

この空車が事故その他の事由により指定列車に継送を、または指定の車種・車数を欠いた場合は、発駅または継送駅は、その事由を付し鉄道管理局に速報し、自駅の処置について指示を受けなければならない。この通報を受けた鉄道管理局は指定を欠いた列車または車種・車数を勘案し、速かに適切な指示をしなければならない。

6 空車票

空車を回送する場合には、つぎの区分によって空車に貨車車票(空車票)をそう入することになっている。車票は原則としては貨物掛がそう入するものであるが、空車票は車号掛が取扱うことができる。

(1) 特定空車票

他の支社に回送する空車は本社から命令されたものであるから、原則として特定空車票を使用する。ただし他の支社へ回送する空車であっても、本社において必要がないと認めた場合は、普通空車票の使用を指定することがある。

このほか支社または鉄道管理局が緊急で正確を必要とする場合には、とくに指定して特定空車票を使用することができる。

(2) 普通空車票

特定空車票を使用しない空貨車を回送する場合に使用する。ただし有貨扱の甲種の鉄道車両、有貨扱の私有貨車の返送または回送はその車両自体を貨物として運送するものであるから、空車であっても普通車票を使用しなければならないし、遊車には貨物積車に使用する車票と同一のものを使用しなければならないことになっている。――貨車運用。(中尾福三)

くうしゃじゅうりょう 空車重量 空車の場合の重量。自重ともいう。すなわち旅客・貨物の輸送および運転の必要上、積載すべき器具・物資・乗務員を含まない車両自体の重量。たとえば蒸気機関車ではテンダの水・燃料・砂箱の砂・ボイラ内の水・道具類などおよび乗務員を含まない場合であり、客貨車では旅客・貨物および車両の装備すべき水・蓄電池などを積載しない場合である。(高桑五六)

くうちゅうんそう 空中運送 空間を利用して航空機により旅客または物品を運送することをいう。わが航空法は「航空機とは、人が乗って航空の用に供することができる飛行機・回転翼航空機、滑空機および飛行船その他政令で定める航空の用に供することができる機器をいう」と定義している。空中運送は歴史的には新しいが、第1次大戦以来急速な発達をみて、今日では陸上運送・海上運送とならんで運送分野を形成しつつある。しかし法律上空中運送に関する特別の私法規定のない現在